

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 30 日作成)

委員会名	ベストプラクティス小委員会	主 査 名：小玉祐一郎
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：仙田 満
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>持続可能な建築を目標にした多様な試みが実践・展開されている。そのことによって、持続可能な建築の理念に関して、多様な解釈と定義がされていることも明らかになってきた。地球環境負荷低減という目標達成においても、多様な価値観に基づく設計コンセプトがあり、様々な計画のプロセスがあることが明らかになってきた。本小委員会では、持続可能な建築の事例の収集・分析を行い、設計者の意図を明らかにし、またどのような評価体系によって評価されているかを調査して、今後の持続可能な建築の理念の確立に資することを目的とする。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>小玉 祐一郎(神戸芸術工科大学：主査) 太田 浩史(デザイン・ヌーブ：幹事) 浅野 耕一(秋田県立大学) 磯 達雄(フリックススタジオ) 伊藤 昭(日建設計) 榎原 徹(東京大学) 清家 剛(東京大学) 曾我部 昌史(東京芸術大学) 田中 大介(鹿島) 中村 勉(中村勉総合計画事務所) 難波 和彦(東京大学) 野沢 正光(野沢正光建築工房) 松本 淳(東京工業大学) 村田 涼(エステック計画研究所) / 森 義之(オーヴ アラップ アンド パートナーズ ジャパン リミテッド)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	85,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>6月4日(水)・8名 7月7日(月)・7名 8月22日(金)・6名 9月29日(月)・10名 10月17日(金)・9名 11月28日(金)・11名</p> <p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p>
得られた成果	<p>(1) 2003年4月5日(土) シンポジウム「未来にむけての環境建築デザイン」 小委員会の企画によるトーマス・ヘルツォーク氏(ミュンヘン工科大学教授)をドイツ文化センターにて開催。同氏による展覧会「建築+テクノロジー」のカタログ付属冊子を小委員会にて作成</p> <p>(2) 2003年6月4日(水) シンポジウム「持続可能な都市の未来—ドイツの都市における新たな試み」 エックハルト・ハーン氏(ドルトムント大学教授)を建築学会にて開催。</p> <p>(3) 2003年10月17日(金) シンポジウム「アーバニティとサステナビリティ」 ダルコ・ラドヴィッツ氏(メルボルン大学教授)を建築学会にて開催。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>2003年2月に「G & A」紙にまとめたベストプラクティス事例とその整理の枠組みについて、海外研究者による3度のシンポジウムによって整理・評価した。その結果サステナビリティの議論において「都市」的視点が重要になっていることが把握でき、2004年度以降の活動に大きな示唆を得ることができた。</p>
その他評価すべき事項	